



『東北圏だより』



「東北観光博」の開催概要について

東北運輸局企画観光部

東日本大震災により、大きく落ち込んだ東北地方の観光需要を回復するため、「東北観光博」を実施します。東北地域全体を一種の博覧会場と見立てて、短期的には、大きく落ち込んでいる東北地域への旅行需要の喚起、中長期的には地域全体が主体となった新たな観光スタイルを実現するため、官民を挙げた一体的な取組を実施します。

具体的には、東北地域への送客を強化するとともに、東北の主要な観光地域30カ所程度を核となる「ゾーン」として設定し、地域観光案内人の配置、地域独自のコンテンツの提供等を行い、地域が主体となった持続的な取組の定着を図ることを目的としています。

地域の取組としては、地域独自の着地型商品の企画・提供、着地型商品の普及促進、リピーターやファンを獲得するための地域観光案内人の配置などがあります。地域観光案内人は、地域に精通し、地域を愛する人々が、ゾーンの拠点となる案内所などに設ける旅のサロンなどで地域の商品・企画を紹介し、観光客に直に地域の魅力をアピールすることとしています。

全体的な取組としては、旅行会社などとの連携による東北地域への送客強化、地域の方々と旅行者の出会いを創るための観光博パスポート等の導入と観光博公式ガイドブックの作成、観光情報の一元的な提供を行う観光博ポータルサイトの作成などを行います。

旅行者は旅のサロンで観光博パスポートの交付を受けます。ゾーン間の移動ごとにパスポートにスタンプ捺印をすることで、地域の人々と触れあう機会の創出を図り、リピート客を促進していきます。パスポート持参者にはゾーン内での各種施設などでの割引等といった特典の付与も考えられています。

1月29日に、福島市で福島県知事及び観光庁長官をはじめとした関係者が出席して「東北観光博」実行委員会準備会合を開催し、30日から先行する8ゾーンにおいてプレ実施しています。3月には首都圏を中心に大々的な広報宣伝を行い、かつ、全てのゾーンにおいて旅のサロンを開設し観光博パスポートや観光博公式ガイドブックなどの関連ツールも出そろい、本格的な実施が図られます。そして、平成25年3月末まで継続して行われることになります。

皆様も地域観光案内人との出会いを求め、観光博パスポートを手に、博覧会場のゾーン巡りをしてはいかがでしょうか。



東北観光博における「ゾーン」



- 東北の主要な観光地域30箇所程度を核となる「ゾーン」とする。
- 「被災4県の沿岸部」については、被災地の復興と人的交流の促進に資する取組を支援する。



被災4県の沿岸部(人的交流の促進への取組に支援)

○「ゾーン」を核として一定の広がりを持つ圏域として「エリア」を設ける。
「エリア」については、各県において設定する。
※ゾーンについては、開催期間中に状況を見ながら柔軟に変更等の対応を実施



広域地方計画に係わる動き

○第19回東北圏広域地方計画協議会幹事会開催報告

第19回東北圏広域地方計画協議会検討会議幹事会が1月26日に東北地方整備局大会議室において開催されました。

はじめに各構成機関からお寄せいただいた東日本大震災における教訓や課題を活用する観点から「教訓集」としてとりまとめ公表する旨推進室から提案され了承されました。

次に東北圏広域地方計画の検証点検作業の結果について推進室から現行計画に大きな齟齬があることが説明され、計画の変更に向けた作業に着手する旨合意されました。

さらに今後の進め方として、これからの全体の枠組みや基本方針等の検討について、ワーキンググループの活用も視野に入れつつ構成機関のみならずと協力して進めていきたい旨提案がなされました。各構成機関から活発な意見が挙げられ、ワーキンググループの作業ボリューム、スケジュールを明確にした上検討することになりました。

後日、前記の内容を整理し構成機関の意見を伺ったところ、各構成機関とも可能な範囲で協力をしていく旨合意されました。

今後、ワーキンググループでの議論を踏まえ、3月の幹事会では計画変更の骨子を諮っていくこととなります。



▲第19回幹事会の様子

秋田県ドクターヘリの運航開始について

秋田県では、平成24年1月23日（月）にドクターヘリの運航を開始しました。福島県、青森県に次いで、東北地方では3番目の導入になります。

「安心医療秋田」を目指す秋田県は、救急搬送体制を強化するため、高速交通体系の整備を進めるとともに、ドクターヘリを導入することとし、約2年をかけて準備をしておりました。広大で中山間地域の多い秋田県にとって、ドクターヘリの導入は、迅速かつ高度な医療を提供する体制の向上につながり、県民の救命率の向上と後遺症の軽減が図られるものと期待されています。

ドクターヘリの基地病院は秋田赤十字病院（秋田市）で、出動時間は8：30～17：30（又は日没30分前のいずれか早い方）、県内全域を対象としています。消防本部からの要請を受けたドクターヘリは、救急患者を現場やヘリコプターの機内で治療しながら、地域の受入可能な医療機関や秋田市の三次救急医療機関に搬送します。秋田県では、ヘリポートを有する病院が現在8病院あり、将来的には10病院となる予定です。

今後は、実績を重ねてよりよい運航体制を構築していくほか、高速道路上での離着陸、災害時の出動体制、近隣県との広域連携等についてもさらに検討していく必要があると考えています。



編集後記

「今日も寒いですね」が日常の挨拶になってしまうほど寒い日が続いていますね。特に日本海側は記録的な積雪により大変なご苦労をされていることと思います。

今号は久しぶりに協議会構成機関の中から秋田県に「ドクターヘリ運行開始」のご寄稿いただきました。今年中には岩手県・山形県でも次々運行される予定があり、広域運行の本格的な議論をPT会議などで展開していくことが望めます。広域地方計画変更の議論など多忙な中ですが、即効性のあるプロジェクトについては機を逃さずに行っていく必要があると思いますのでぜひお願いしたいものです。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp